

# 第6回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

## ○4月27日検討会の開催結果

- ・実施概要

日時：4月27日(水) 18時30分～20時30分

会場：区役所会議室・オンライン

人数：15人

## I. 中原SDCの目的/存在意義

### ①社会背景

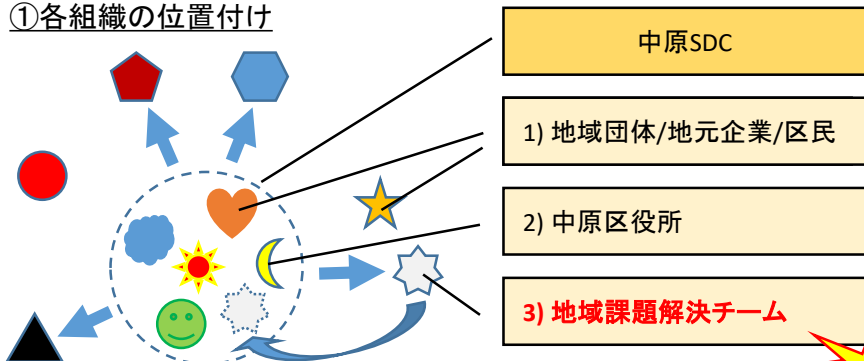
- ・価値観の多様化から従来の画一的な行政サービスが限界化
- ・超高齢社会、ポスト成長時代における豊かな生き方の模索

### ②目的/存在意義

- ・自分たちの町の課題は自分たちで解決する、の実現  
 ~『知る・集う・つながる』をもっと効率化するための知恵やアイデアを持ち寄る  
 それを実現するための新しい仕組みを創り出す
- ・多世代が関わり、寛容で親しみやすい組織

## II. 中原SDCの体制

### ①各組織の位置付け



### ②地域課題解決チーム

- ・中原SDCから生み出された、課題解決の仕組みを実現する主体
- ・中原SDC内で、a) 課題提起、b) 解決方針の刷り合せ、c) チームアップがなされれば活動開始
- ・現状は「なかはら盛り上げ隊」「超”ローカルかわら版”」

## ③中原SDCの活動内容

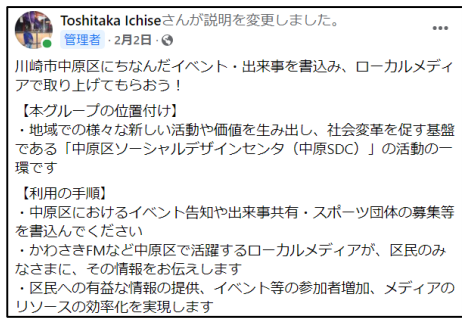
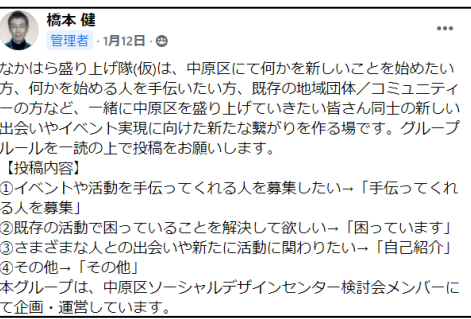
- 1) “YORIAI”の実施(寄合い/燃り愛)
    - ・顔を合わせることでこそアイデアが生まれる
    - ・定期活動日を設定するものの、参加は任意・広く区内に告知(第一金曜・第三木曜など)
    - ・コンテンツ
      - a) 中間支援活動 勉強会  
 中間支援団体(?)を招き、その取組と位置付けの理解を深める
      - b) 市民活動団体 交流会  
 市民活動団体を招き、活動の紹介や告知を実施
      - c) 課題解決グループワーク(任意参加)  
 市民活動をする中での困りごと、あったらいいなについてディスカッション
      - d) …
  - 2) 地域課題解決チーム分科会
    - ・取り組みたい課題が共有できたチームは、個別に検討推進
    - ・区役所含む中原SDCメンバに随時相談可能
  - 3) …
- ④運営体制
- ・事務局業務は最小限の業務とし、中原SDCメンバで持ち回り
  - ・～YORIAIの各種手配や当日のファシリテーション
  - ・区民への告知は、超かわら版を活用

## III. 活動場所

- ①主たる活動場所
  - ・リアル: 中原市民館、オンライン: Facebook(案)
- ②従たる活動場所
  - ・リアル: おおきな木ほか区内5地域に一つずつ設置
  - ・オンライン: Twitter、Instagram

## IV. スケジュール感

- 【2022/4(or 5)～】中原SDC設置宣言
  - ・市民館確保、Facebook整備、広報開始(超かわら版)
  - ・YORIAI準備開始、課題解決チーム組成(あと1-2チーム)
- 【2022/10～】中原SDC活動開始
  - ・YORIAI\_1st 開催



# 第6回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

R4年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~
			☆6/15(水)				
取組案の検討			仮)中原区SDC 準備会				仮)中原区SDC 活動開始
		今回					

## ・活動開始までのスケジュール

→6月から準備会として進め、10月から活動開始

## ・今後の開催日程について

→毎月第3週水・木曜日(偶数月:水曜、奇数月:木曜)

# 令和3年度中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた取組状況

## 1 取組概要

### (1) 目的・概要

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」において、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たな取組として創出することとされた「ソーシャルデザインセンター」について、令和4年度の活動開始に向けて次の取組を行った。

### (2) 令和3年度取組経過

ア 「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン」(仕様案)作成  
令和3年5月に中原区のソーシャルデザインセンター創出に向けた案を下描きとして「知る」「集う」「つながる」を主な機能として示す「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(以下「デッサン」)」を作成。

### イ 区民説明会(7月16日 39名参加)

「デッサン」に基づき説明会を開催

・当日のアンケート結果(抜粋)

きっかけづくりや連携強化、**取組の実践**への関心が**高い**。一方で、人材育成や助言など地域の活動に**間接的に関わる機能**については関心が**低い**結果となった。  
⇒区民の方とSDCの取組を検討するにあたり、SDCが担うべき支援の取組について直接検討するのではなく、地域活動の実践等区民の方が**興味のあることと関連付けて**検討できる仕組みづくりが必要と考えた。

⇒SDC創出に向けた区民の方との検討の方向性

**まず、区役所が調整役となり地域活動を生み出すSDCの機能を体験する機会(意見交換会)を設け、それを踏まえSDCの機能、運営体制を検討(検討会)。**

### ウ 意見交換会(8月20日～12月17日 計5回 延べ参加者数94人)

区民の方向士の意見交換により地域活動を生み出す取組を実践。  
⇒「超”ローカルかわら版」、 「なかはら盛り上げ隊」等の取組を検討・創出

### エ 検討会(1月21日～3月18日 計5回 延べ参加者数60人)

はじめに、意見交換会の成果報告を行い、以降、**SDC機能、運営体制を検討**。  
⇒「デッサン」で示した機能の修正案を取りまとめ(別紙「デッサン修正案」)、**これから実践する取組を決定**。

### オ 庁内検討プロジェクト(9月27日、11月29日)開催

SDC創出に向けた課題を関係部署職員にて共有・検討  
→グランドルールの必要性・決め方・定める事項、コーディネートの必要性等

### カ こすぎの大学主催:中原区ソーシャルデザインセンター検討ワークショップ(10月23日、11月6日)

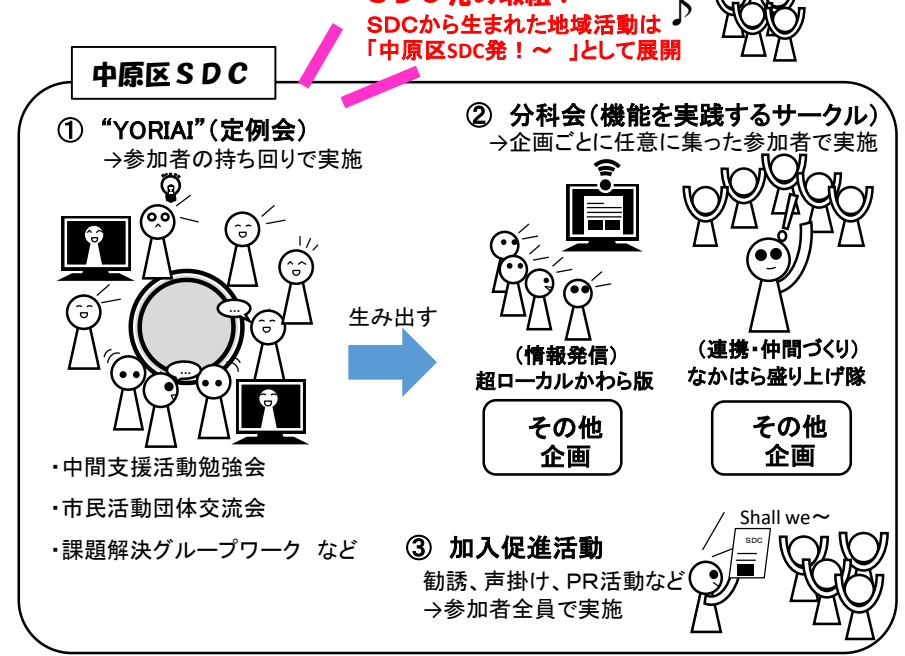
区民意見交換会を補完し、中原区らしいSDCを創出することを目的として武蔵小杉で活動している「こすぎの大学」が自主的に実施。  
幸区SDC「まちのおと」コーディネーター岩川氏、地域で人のつながりを生むプロジェクト「100人カイギ」発起人高嶋氏から事例紹介を受け、中原区SDCで各自がやりたいことのイメージを共有し、参加者がSDCでやりたい取組を時間割にするワークショップを実施。

## 2 取組結果

### (1) 取組の方向性

- ・「知る」、「集う」、「つながる」、「その他」の機能(「別紙デッサン修正案」)を実践する。
- ・今ある資源でできることからスモールスタートする。  
→区役所もメンバーとして参加しながら、市からの補助金等に頼らず運営する。

### (2) 体制イメージ図



### (3) 活動開始に向けた検討事項

活動期限、YORIAIの企画詳細、事務局役割分担、SDC参加のルール など

# 第6回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

## 4月27日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会ノート

### ●今後のスケジュールについて

・4～5月までを検討会、6月から8月を準備会、9月にはうまく進めばプレ実施、10月から本格実施と考えているがどうか。

・(全員)異議なし

・6月の準備会については、市政だよりで地域の皆様に広報しようと考えており、×切の関係で6月の日程を決めさせていただきたい。参加状況を踏まえて水曜か木曜の夜あたりがよいかと思うが、6月15日(水)の18時半からでよいか。

・(全員)異議なし

### ●次回(5月)の日程について

・4月、6月は水曜なので5月は木曜で5月26日(木)でよいか

・(全員)異議なし

### ●活動報告について

○超かわら版

・Facebookにグループがあるため、ご自身がやること等を書き込んでいただき、メディアに取り上げてもらうイメージ。NMN側は企画段階のものでいいので、なるべく早い段階で新鮮な情報が欲しいとのこと。メディアの方々はいつも見れるわけではなく、検索性が欲しいとのことだったため、何月に書き込んだものかわかるようにトピックを作成するなど、改良しながらやっている。

○なかはら盛り上げ隊

・中原区SDCとして、ロゴやFacebookのヘッダーに使えるような絵や図があった方がいいのではないかと。スキルをお持ちの方がいれば、SDCの活動として「なかはら盛り上げ隊」でメンバー募集をしたい。

・グラフィックデザイナーなどの知り合いはたくさんいるため、企画が具体的になったら協力できる。

# 第6回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

4月27日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会ノート

## ●運営体制・進め方について

- ・SDCの課題や今後の運営等について、現在いるメンバーから少し絞って内容を詰めてから、皆さんにお諮りするのでもよいのではと思っているがどうか。自薦他薦問わないが、ご希望があれば検討メンバーを絞って綿密なやり取りをさせていただきたいと思っている。
- ・検討会に参加している人数自体が少ないため、これ以上絞る必要はない。
- ・少し細かい話になってしまうが、今いるメンバーにお付き合いいただき、進めさせていただきただけと思う。
- ・リアルで会って膝詰めでやっていかないと形にならない。

- ・オンラインのメリットもあるが、できれば膝詰めでリアルに集まって話す会を設けていきたいと思う。
- ・グループごとにSlackのチャンネルも作成したので、ご活用いただきたい。

# 第6回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

## YORIAI(定例会)について

○『知る・集う・つながる』をもっと効率化するための知恵やアイデアを持ち寄る場として

YORIAI(定例会)を実施

定期的な活動日は設定するものの、参加は任意とし、広く区内に告知する

・現在想定しているコンテンツ

a) 中間支援活動 勉強会

中間支援団体(?)を招き、その取組と位置付けの理解を深める

b) 市民活動団体 交流会

市民活動団体を招き、活動の紹介や告知を実施

c) 課題解決グループワーク

市民活動をする中での困りごと、あったらいいなについてディスカッション



このコンテンツの中からグループに分かれてやってみたい企画を考える

# 第6回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

## <YORIAIでやりたいことの企画提案ワークショップ>〔45分〕

### ○目的：YORIAIのコンテンツの中で実際にやってみたい企画を考える

グループ1：勉強会、グループ2：交流会、グループ3：課題解決GW、その他グループ

自己紹介等  
(5分)

- ・自己紹介：「名前+所属(あれば)+参加したきっかけ(新規の方のみ)」を1人1分で
- ・進行役、書記、発表者を決定

グループワーク  
(30分)

- ・『コンテンツごとにやりたいこと』を検討する  
→これまでの検討状況等を踏まえ、それぞれのイメージを1人2分で発表する
- ・ワークシートを使いながら、グループ内で意見交換
- ・企画の具体化を進める

全体共有  
(10分)

- ・各グループごとにアイデアを全体に共有する(1グループ×3分程度)

その他

- ・調整さん決め

○ゴール：実施するアイデアを決め、具体的な計画が立てられるようにする



# ワークショップ議事録(勉強会)

4月27日 19時40分～

メンバー

・勉強会を希望した理由

中原区には多くの町内会やサークルがあり、それぞれが情報発信をしているが、情報が一元化されていない。お互いの団体や区民に対して十分に届いていない現状を変えていきたい。

3月まで町づくり推進。新丸子防災部長。警察や消防署の方々を招いた勉強会などを開きたい。

ミドルシニア層の活躍機会の促進など。寄り合いで実現するかは分からないがメディア媒体を作りたい。

自分が生まれ育った中原区をもっと深く知る必要があることに気がついた。歴史や産業などについて理解を深めたい。

まとめ

1. 第一段階として中原区で活躍している団体と内容を知る
  - ・小学生は「かわさき」という冊子で町の歴史や地理を学ぶ
  - ・区役所5階に「中原区の仲間達」という冊子で約60団体を紹介
  - ・HPにPDFあり

<https://www.city.kawasaki.jp/nakahara/page/0000097286.html>

  - ・区役所5階には福祉に特化した「見守り支援」冊子がある
2. 以上を知った上で、
  - ・「中原区にはどのような団体があって何をしているのか」勉強会を開催
  - ・「メディアと紙のマッチング」を実現する活動のベースとなるようなインフラの整備を進める
3. そのうえで
  - ・警察や消防による勉強会「中原区は犯罪は意外に少ない?!」
  - ・中原区の歴史や地理を知ろう!! といった個々の勉強会の開催を検討する

次回以降の開催

- ・水曜日の午後6時30分以降でみなさんの都合の良い時間

## 4.27 (仮)街の課題ワークショップ チーム 議事メモ

次回以降予定 5.26 6.15

それぞれのメディアに投げるのは大変なのでこういうのあったらいいな、で互いのニーズのマッチングを目的とした『超ローカルかわら版』を立ち上げた。

寄合機能の中から出てきたお困りごとや、やりたいことを定期的にみんなで解決できる場になればよいのではないか。

月に1回、1時間～2時間程度想定でどうか。

島根に地域おせっかい会議と呼ばれる、おせっかいの種に対してアイデアを出したりつないだりしている会議があるので参考になるのではないか。

課題の設定の仕方(何をすべきかを見極める手法?)がシステムを作っていくうえで大切ではないか。ある課題を決め、取組み、どう持続可能な取組につながっていくかのステップを考える必要がある。

マンションの日照権やビル風のような課題を話し合うのもスケールが大きくて手に負えないが、かといって個人的すぎる話も、ルールが必要になるのかも。

個人の課題よりも社会課題のほうが適しているとは思いますが課題の範囲設定をどうするか。

あまり細かく決めてしまうのもハードルとなるのではないか。

ちょっとしたもやもやの気づきの場になればよいのでは。

門戸は広くして、大きな課題もハードルを下げて考えていくことが大切か。ざっくばらんな雑談から持ち込まれた社会課題を話し合う場になれば。

課題として言語化できる人ばかりではないので、例えばもやもやの課題化、まずは発見、共有、ガス抜きまでにとどめて必ずしも解決までは求めなくてよいのかも。

アートで社会課題を解決という手法も楽しいことで結果的に何かしら解決すればというスタンス。

直接的な解決に至らなくても視点を变えることで結果的に課題が気にならなくなるかもしれない。ちなみにこの会は勉強会や交流会をフックにしてその一部の時間での相談会のような形での開催が適しているのではないか。

我々がアンテナを張って自ら街の中に課題を探しに行く姿勢も必要だと考えている。